

地 理 歴 史

1 学習評価の改善・充実

(1) 学習評価の改善の基本的な考え方

各教科等の目標及び内容を資質・能力の三つの柱で再整理した新学習指導要領の下での指導と評価の一体化を推進する観点から、観点別学習状況の評価の観点についても、「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の3観点に整理された。

また、観点別学習状況の評価と評定の双方の特長を踏まえつつ、その後の指導の改善等を図ることが重要であることが明確にされ、観点別学習状況の評価と評定の両方について、学習指導要領に示す各教科・科目の目標に基づき学校が地域や生徒の実態に即して定めた当該教科・科目の目標や内容に照らし、その実現状況を評価する、目標に準拠した評価として実施することを明確にするなどの改善が図られた。

(2) 評価の観点及びその趣旨

教科における評価の観点及びその趣旨は、学習指導要領に示された教科の目標を踏まえて作成され、改善等通知で示されている。

【学習指導要領「教科の目標」】

(1)	(2)	(3)
知識及び技能に関する目標	思考力、判断力、表現力等に関する目標	学びに向かう力、人間性等に関する目標

【※改善等通知 別紙5「評価の観点及びその趣旨」】

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	知識・技能の観点の趣旨	思考・判断・表現の観点の趣旨	主体的に学習に取り組む態度の観点の趣旨

地理歴史科の評価の観点及びその趣旨

科目の目標に対する評価の観点の趣旨は、各学校で設定する。

【学習指導要領「科目の目標」】

(1)	(2)	(3)
知識及び技能に関する目標	思考力、判断力、表現力等に関する目標	学びに向かう力、人間性等に関する目標

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	知識・技能の観点の趣旨	思考・判断・表現の観点の趣旨	主体的に学習に取り組む態度の観点の趣旨

地理総合&歴史総合の評価の観点の趣旨の例

※ 「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について」（平成31年3月29日付け30文科初第1845号通知）

(3) 評価規準の設定

(2) のように、学習指導要領に示された教科及び科目の目標を踏まえて「評価の観点の趣旨」が作成されていることを理解した上で、「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する。

地理総合及び歴史総合の「内容のまとまりごとの評価規準（例）」

【地理総合】

A 地図や地理情報システムで捉える現代世界	(1) 地図や地理情報システムと現代世界・・・内容のまとまり①
B 国際理解と国際協力	(1) 生活文化の多様性と国際理解・・・内容のまとまり② (2) 地球的課題と国際協力・・・内容のまとまり③
C 持続可能な地域づくりと私たち	(1) 自然環境と防災・・・内容のまとまり④ (2) 生活圏の調査と地域の展望・・・内容のまとまり⑤

地理領域（地理総合、地理探究）では中項目が「内容のまとまり」です。

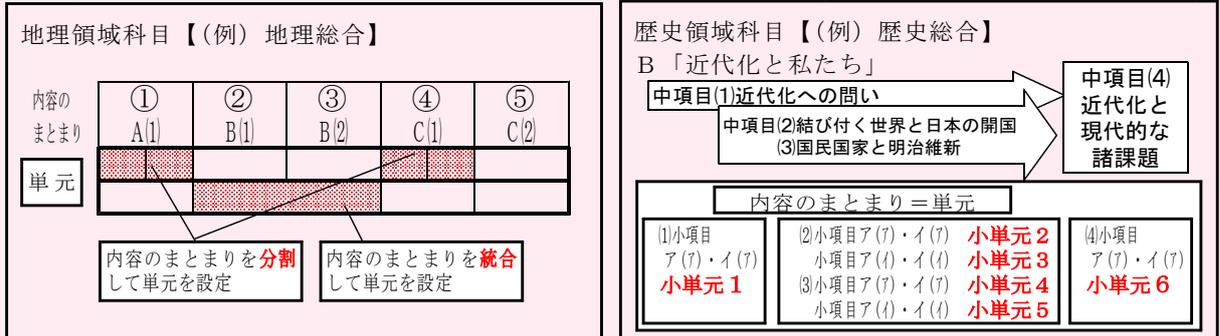
【歴史総合】

- A 歴史の扉・・・・・・・・・・・・・・・・内容のまとまり①
- B 近代化と私たち・・・・・・・・・・内容のまとまり②
- C 国際秩序の変化や大衆化と私たち・・内容のまとまり③
- D グローバル化と私たち・・・・・・・・内容のまとまり④

歴史領域（歴史総合、日本史探究、世界史探究）では大項目が「内容のまとまり」です。

なお、「主体的に学習に取り組む態度」に関しては、生徒の学習への継続的な取組を通して現れる性質を有すること等から、学習指導要領の「2 内容」には記載されていない。そのため、各科目の「1 目標」を参考にしつつ、必要に応じて、「改善等通知」に示された評価の観点とその趣旨のうち「主体的に学習に取り組む態度」に関わる部分を用いて「内容のまとまりごとの評価規準」を作成する必要がある。

内容のまとまりと単元の違い
 地理領域科目は、「内容のまとまり」を分割したり統合したりすることも考えられます。それに対して、歴史領域科目は、「内容のまとまり」が一つの大きな単元としてデザインされているので、「内容のまとまり」＝単元として設定されます。



いずれの場合も、原則として「内容のまとまりごとの評価規準」を基に、各科目の項目構成の特色を踏まえた上で、「単元の評価規準」を作成してください。

(4) 観点別学習状況の評価についての実施上の留意点

ア 知識・技能

- ・知識については、社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが大切である。また、細かな事象の網羅的な羅列を評価規準として求めないことが必要である。
- ・技能については、学習指導要領解説の参考資料2に整理されており、これらの技能が身に付けられるようにすることが大切である。参考資料2「社会的事象について調べまとめる技能」

イ 思考・判断・表現

社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察したり、社会に見られる課題を把握してその解決に向けて構想したりする学習を一層充実させるため、「社会的な見方・考え方」を踏まえた具体的な「視点や方法（考え方）」を組み込んだ評価規準の設定が重要である。

【社会的事象の地理的な見方・考え方】

- 「社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けること」と整理されている。
- 「社会的事象の地理的な見方・考え方」を構成する視点には、「位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域」などがある。

【社会的事象の歴史的な見方・考え方】

- 「社会的事象を、時期、推移などに着目して捉え、類似や差異などを明確にしたり、事象同士を因果関係などで関連付けたりすること」と整理されている。
- 「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を構成する視点には、「時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながり」などがある。

ウ 主体的に学習に取り組む態度

単元を超えて評価規準を設定するなど、ある程度長い区切りの中で評価することが考えられる。

(5) 観点別学習状況の総括の進め方

ア 評価の時期等

毎回の授業ではなく、原則として単元や題材など内容や時間のまとまりごとに、それぞれの実現状況を把握できる段階で行うなど、場面を精選することが重要である。

評価の種類	評価の時期
評定に用いる評価 (評価の計画例における「○」)	内容や時間のまとまりにおける実現状況を把握できる段階で実施
学習改善につなげる評価 (評価の計画例における「●」)	「評定に用いる評価」に至るまでの指導として、机間巡視や作業状況の確認・支援として、学習状況の把握のため日々の授業の中で実施

イ 評価方法の工夫

ノート、ワークシートなどの評価資料をどのように活用したかなど、評価方法の多様な工夫について示すことが大切である。

ウ 評価の総括

適切な評価の計画の下に得た、生徒の観点別学習状況の評価に係る記録の総括の時期としては、単元（題材）末、学期末、学年末等の節目が考えられる。

総括の方法(例)	具体例
A、B、Cの数を基に総括	<ul style="list-style-type: none"> ・ 3回の評価結果「ABB」を「B」と総括 ・ 4回の評価結果を「AABB」を「A」とするか「B」とするかなど、総括の仕方は各学校で定める。
A、B、Cを数値化して総括	<ul style="list-style-type: none"> ・ A=3、B=2、C=1、Bの範囲を $[1.5 \leq \text{平均値} \leq 2.5]$ と定める。 ・ 3回の評価結果「ABB」の平均値は約2.3 $((3 + 2 + 2) \div 3)$ となるため、Bと総括

※ 学年末に総括する際には、それぞれの観点ごとの評価を学年末に総括した結果を基にする方法と、学期末に総括した評定を基にする方法がある。

2 新学習指導要領における指導と評価の計画例

1の(3)で示した「内容のまとまりごとの評価規準」の考え方を踏まえて作成した、単元の目標及び単元の評価規準を含めた指導と評価の計画例を示す。

(1) 地理総合「生活圏で起こり得る自然災害と防災」(「知識・技能」)の計画例

事例1 (地理総合)： オリジナル・ハザードマップを用いた技能の評価	
内容のまとまり	C(1) 自然環境と防災
単元名	生活圏で起こり得る自然災害と防災

※ 内容のまとまり「C(1)自然環境と防災」を2つに分割し、前半部分を単元として設定している。

ア 単元の目標

- 生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。**知**
- 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付ける。**知(技)**
- 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、「生活圏の自然環境の特色を踏まえた防災対策」などの主題を設定し、「地域で予想される災害に、どのように備えればよいのだろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現する。**思**
- 生活圏で起こり得る自然災害と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。**態**

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 ②様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けている。	地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、「生活圏の自然環境の特色を踏まえた防災対策」などの主題を基に、「地域で予想される災害に、どのように備えればよいのだろうか」などを、多面的・多角的に考察し、表現している。	生活圏で起こり得る自然災害と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究解決しようとしている。

ウ 指導と評価の計画（6時間）

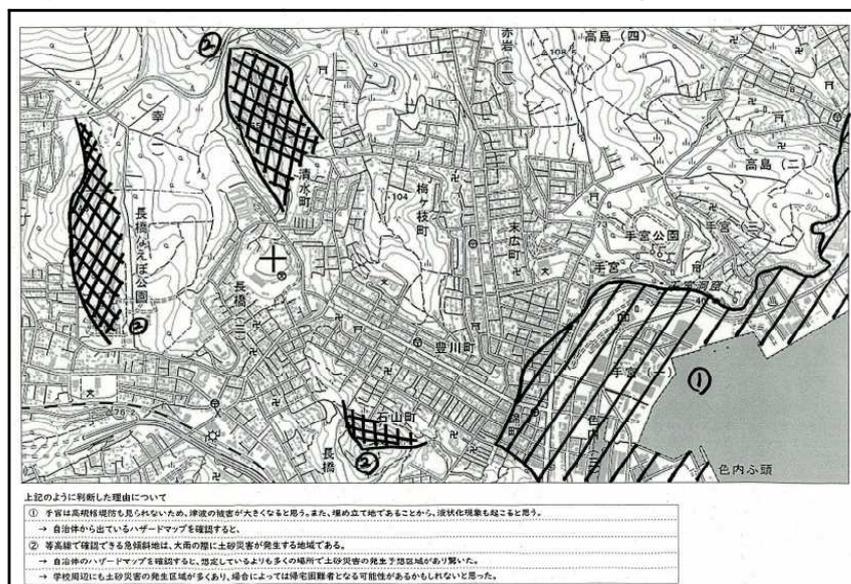
○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」

	学習活動	評価の観点			評価規準等	
		知	思	態		
第1次 (1時間扱)	問い「私たちの生活圏は、どのような特徴を持っているのだろうか」 主題「生活圏の自然環境」 ・地形断面図の作成、谷や集水域の確認などを通して、生活圏の地形について概観する。	●			【技】ワークシート生活圏の地形について、地形図等から情報を読み取り、まとめることができています。	「地図とGISの活用」や「地理的環境の特色」の単元で学習しているため、簡単な振り返り後、作業に取り組みます。適宜、ペアワークやグループワークを取り入れ、生徒全員が一定の理解をしている状況になるように工夫する。
	単元を貫く問い「地域で予想される災害に、どのように備えればよいのだろうか」 ・単元を貫く問いについて、仮説を立てる。		●		【態】ワークシートこれまでの学習と関連付けて仮説を立て、単元の学習に見通しを持って取り組もうとしている。	「地理的環境の特色」や「世界と日本の自然災害」の単元で学習した内容を振り返らせ、それらを踏まえて仮説を立てさせる。
第2次	問い「どのような場所で、どのような災害が予想されるのだろうか」 主題「生活圏の自然災害」 ・デジタル地図やGISから災害が起こりやすい場所を特定する。					第2次では「自然システムアプローチ」の視点で、自然環境の側面から生活圏の災害を捉えていく。

<p>(3時間扱)</p>	<p>Step1：予想 「●●地区は、●●のような自然条件であるため、●●の災害が発生するのではないか」</p> <p>Step2：情報収集 「地理院地図」(Web)から、根拠となる情報を収集する。</p> <p>Step3：情報整理 収集した情報を地形図に書き込み、オリジナルのハザードマップを作成する。</p> <p>Step4：まとめ 「重ねるハザードマップ」(web)から、自治体で作成したハザードマップと、自分が作ったハザードマップとを比較する。</p>	 <p>陰影起伏図 色別標高図</p> <p>○</p> <p>【技】オリジナル・ハザードマップ 根拠となる情報を収集し、読み取り、それらをもとにまとめている。</p> <p>★「エ 評価問題等」で、評価材料とルーブリックを紹介</p>	<p>情報収集では、例えば、地理院地図から災害伝承碑を探し出す活動や、Googleストリートビュー又はフィールドワークから現地を観察する活動も考えられる。</p>  <p>ストリートビューで現地を観察</p> <p>ハザードマップを作成する際は「なぜその場所が危険と考えたのか」を言語化し、収集した情報をもとに、根拠を明確にしながら作成する。 (→評価規準)</p>
<p>第3次 (1時間扱)</p>	<p>問い「災害が発生した時、私たちはどのように行動すべきなのだろうか」</p> <p>主題「災害時の行動」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自助に関する情報（避難場所等）、共助及び公助に関する情報（地域の年齢別人口構成等）を収集する。 ・発生時のタイムラインを作成する。 	<p>○</p> <p>【思】タイムライン（防災行動計画） 自助だけでなく、共助及び公助の観点からも考察したうえで、行動計画を作成している。</p> <p>ワークシート</p>	<p>第3次では「社会・経済システムアプローチ」の視点で、社会環境の側面から生活圏の災害を捉えていく。</p> <p>自助・共助・公助の観点で防災への心構えを考察することで、生活圏の防災についての取組を理解したり、課題について追及したりする意識を高めていくことが期待できる。</p>
<p>第4次 (1時間扱)</p>	<p>単元を貫く問い 「地域で予想される災害に、どのように備えればよいのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮説の変化 ・学習履歴のモニタリング ・新たな問い 	<p>○</p> <p>【態】ワークシート これまでの学習活動を踏まえて単元を貫く問いに対する「解」を考察し、仮説との変容について表現している。</p>	

エ 評価問題等

本事例では、GISから目的に応じた情報を選んで読み取り、まとめることができるかを評価するために生徒が作成する「オリジナル・ハザードマップ」と、質的評価を行うために必要なルーブリックを示す。



ルーブリック	
A	危険と判断した理由について学習内容をもとに、複数の要素から説明できている。
B	危険と判断した理由について学習内容をもとに、一つの要素から説明できている。
C	危険と考えられる場所を特定できている。

Cの生徒については、その場所の地形の特徴に関する補助発問を行ったり、写真等の視覚資料を使用したりすることにより手立てすることが考えられる。

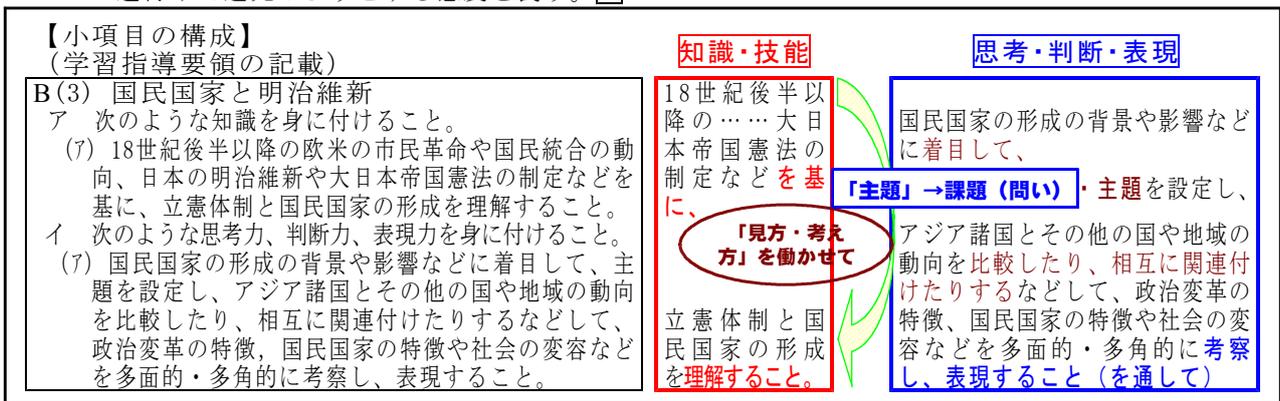
(2) 歴史総合「近代化と私たち」小単元4（「思考・判断・表現」）の計画例

事例2 (歴史総合)：ポスターを用いた 思考・判断・表現 の評価	
内容のまとめ	B 近代化と私たち
単元名	立憲体制と国民国家の形成

※ 内容のまとめ「B 近代化と私たち」のうち、中項目(3)「国民国家と明治維新」の小単元4として設定している。

ア 単元の目標

- 18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、立憲体制と国民国家の形成を理解する。**知**
- 国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。**思**
- 近代化の歴史に関わる諸事象について見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連付けて追究しようとする態度を養う。**態**



イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
18世紀後半以降の欧米の市民革命や国民統合の動向、日本の明治維新や大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、立憲体制と国民国家の形成を理解している。	国民国家の形成の背景や影響などに着目して、主題について、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、政治変革の特徴、国民国家の特徴や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	近代化の歴史に関わる諸事象について、見通しをもって課題に取り組むとともに、自身の問いと関連付けて追究しようとしている。

ウ 指導と評価の計画（8時間）

○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」

	学習活動	評価の観点			評価規準等
		知	思	態	
第1次 (2時間扱)	<p>主題 「国民国家の形成と影響」 小単元4全体に関わる問い 「国民国家はどのように形成され、どのように世界に広がったのだろうか」</p> <p>問い 「市民革命によって政治・社会はどのように変化したのだろうか」</p>				
	<ul style="list-style-type: none"> 小単元全体に関わる問いについて、中学校までの学習等を踏まえて、現時点で分からないことや何がわかると問いが明らかにできるかについて整理する。 アメリカ独立宣言とフランス人権宣言の資料を読み取り、内容を比較して共通点や相違点、現代社会との共通点についてまとめ、市民が目指した社会について理解する。 アメリカ独立革命やフランス革命が発生した原因や思想的な背景について、既習事項や諸資料を活用して表現する。 フランス革命によってヨーロッパに広がった影響や思想はどのようなものであったかについて、諸資料から読み取り、その結果をワークシートに記入する。 	●	●	●	<p>「絶対王政」や「国民国家」などの用語が持つイメージについて生徒が考える時間を設定する。</p> <p>【知・思】ワークシート諸資料から課題の解決につながる情報を適切かつ効果的に読み取り、表現している。</p>

第2次 (2時間扱)	<p>問い「国民国家はどのような影響や課題をもたらしたのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 各国の国民統合の過程を基に、第一次での学習内容を踏まえて、「国民国家とは何か」についてワークシートに記入する。 国民国家に属さない人々の存在に関する事例から、国民国家形成の課題について考察し、ワークシートに記入する。 	<p>ドイツの統一や南北戦争などを基に、国民国家の形成過程について理解を深める。</p> <p>先住民や少数民族が抑圧されたり、従来の地域的なまとまりが破壊されたりする事例を扱う。</p>
第3次 (2時間扱)	<p>問い「日本ではどのようにして国民国家が形成されたのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 江戸幕府と明治政府の相違点分かる資料を収集し、内容を比較し、明治政府の特徴についてまとめ、理解する。 明治政府の諸政策や国民の政治参加を求める運動などを基に、日本における国民国家の形成過程についてまとめ、ワークシートに記入する。 日本で中央集権国家が形成される過程で、先住民や独自の文化を持つ人々についても触れ、国民国家形成の課題について考察し、ワークシートに記入する。 	<p>身分制度、税制度、統治制度など、時代により変化が見られる資料を生徒がICT端末等を活用して収集する。</p>
第4次 (2時間扱)	<p>小単元4のまとめ 小単元4全体に関わる問い「国民国家はどのように形成され、どのように世界に広がったのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1～3次の内容を基に、小単元4全体に関わる問いについてまとめ、ワークシートに記入する。 <p>新たな問い 「国民国家をより強固なものにするために、当時の国々は何を必要としたのだろうか」</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに提示された上記の問いに対する「解」が表現された「ポスター」を作成する。 ポスターセッションを行い、意見交換をもとに、自分の考えを振り返り、必要に応じて修正する。 <p>★「エ 評価問題等」で、評価の材料とルーブリックを紹介</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>【思】ポスター第3次までの学習内容を踏まえ、根拠となる情報をもとに、考察し表現している。</p>

エ 評価問題等

第4次では、これまでの学習の成果を基に、新たに提示された問いについて考察する場面が設定されている。その際に生徒が作成するポスターを示す。

【作成例】

根拠となる情報を収集し、活用する

もし、あなたが当時の宰相だったとしたら、形成されつつある国民国家をより強固なものにするために、何が必要と考えるか

ワークシートを拡大

全ての生徒がICT端末により、このようなポスターをプレゼンテーションソフトで容易に作る事ができる。また、GoogleのJamboardなど、学習支援ソフトを使用することで、作品の共有を画面上で行うことができる。

例えば、「項目を複数提示し、順位を付ける」「マトリクス図で重要度と緊急度を示す」「根拠となる資料を添付する」といった表現方法が考えられる。

【ルーブリック】

A	B	C
根拠となる資料を基に、国民国家の経営に必要な要素を考察し、表現することができている。	国民国家の経営に必要な要素を考察し、表現することができている。	国民国家の経営に必要な要素を考察できていない。

Cの生徒は、単元で取り扱った「国民国家」の概念の知識の理解が不十分であることが考えられる。例えば、絶対王政と比較して国民国家を捉え直させるなどの手立てが考えられる。

(3) 歴史総合「国際秩序の変化や大衆化と私たち」（「主体的に学習に取り組む態度」）の計画例

事例3（歴史総合）：学習記録シートを用いた主体的に学習に取り組む態度の評価	
内容のまとめり（単元名）	C 国際秩序の変化や大衆化と私たち
※ 長期的な学習状況から、どのように主体的に学習に取り組む態度を評価するのかわかることから、内容のまとめり（大項目）全体を単元として設定している。	

【学習指導要領の「中項目」と、指導と評価の計画の「小単元」の関係】	
中項目(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い	小単元 1
中項目(2) 第一次世界大戦と大衆社会	小単元 2・3
中項目(3) 経済危機と第二次世界大戦	小単元 4・5
中項目(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題	小単元 6

ア 単元の目標

- ・国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。【知】
- ・国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を身に付ける。【思】
- ・国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究しようとする態度を養う。【態】

イ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、資料から情報を読み取ったり、まとめたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について考察し、問いを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・国際秩序の変化や大衆化の歴史に関わる諸事象について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追究しようとしている。
<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題について、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 中項目(1) 「国際秩序の変化や大衆化への問い」に係る評価規準 中項目(2) 「第一次世界大戦と大衆社会」に係る評価規準
<ul style="list-style-type: none"> ・世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめ、国際協調体制の動揺を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題について、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 中項目(3) 「経済危機と第二次世界大戦」に係る評価規準
<ul style="list-style-type: none"> ・現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、主題について多面的・多角的に考察し表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> 中項目(4) 「国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題」に係る評価規準 ・よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見い出そうとしている。

ウ 指導と評価の計画（20時間）

○…「評定に用いる評価」、●…「学習改善につなげる評価」

中項目	小単元	学習活動	評価の観点			評価規準等	「主体的に学習に取り組む態度」を評価する場面と方法等
			知	思	態		
(1) 国際秩序の変化や大衆化への問い	小単元1 (2時間扱)	<p>《課題》「国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容を示す資料から、興味・関心をもったこと、疑問に思ったこと、追究したいことなどを問いの形で表現してみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでの学習や中学校の学習を踏まえ、私たちの生活や社会の在り方が国際秩序の変化や大衆化に伴い変化したことを示す資料から、情報を読み取る。 読み取った情報から、問いの形に表現する。 	●	●	●	<p>【知】 国際秩序の変化や大衆化に伴う生活や社会の変容について、資料から情報を読み取ったり、まとめたりしている。</p> <p>【思】 考察したことを踏まえ、問いを表現している。</p> <p>【態】 単元全体の学習の見直しをもって取り組もうとしている。</p> <p>★「エ 評価問題等」で、評価の材料を紹介</p>	<p>これから学習する単元（大項目）の中で、自分が表現した問いをどのように追究していくか、適切な見直しをもって学習に取り組もうとしているかを評価する。</p> <p>【学習記録シート：例（ア）】</p>
(2) 第一次世界大戦と大衆社会	小単元2 (6時間扱)	<p>主題「総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制」</p> <p>小単元2全体に関わる問い「第一次世界大戦が世界と日本に与えた影響とは何であったか」</p> <p>○小単元2の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 小単元2全体に関わる問いについて考察する。 <p>① 第一次世界大戦の展開に係る問い</p> <ul style="list-style-type: none"> 「第一次世界大戦がそれまでの戦争と異なったのはなぜか」 「日本はなぜ第一次世界大戦に参戦し、どう変わったのか」 <p>② 日本やアジアの経済成長に係る問い</p> <ul style="list-style-type: none"> 「第一次世界大戦により、どのように経済成長したのか」 「あなたは、日本やアジアの経済成長が生み出した変化で最も大きな影響を与えたのは何だと考えるか、それはなぜか」 <p>④ ナショナリズムの動向と国際連盟の成立に係る問い</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ナショナリズム運動により民衆が実現したものの理解することは、あなたにとってどのような意味があるか」 「あなたは、国際協調体制の目的は何であったと考えるか」 <p>○小単元2のまとめ</p> <p>《課題》①～④の学習内容を踏まえ、小単元2全体に関わる問いについて、資料を活用して考察し、その結果を表現する。</p>	●	●	●	<p>【態】 小単元2全体に関わる問いについての仮説を立てることで、小単元全体の学習の見直しをもって取り組もうとしている。</p> <p>【知】 資料から学習上の課題につながる情報を適切かつ効果的に読み取っている。</p> <p>【思】 第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p>	<p>小単元2全体に関わる問いについて、中学校までの学習事項やこれまでの学習から仮説を立てるとともに、考察に向けた学習の見直しを立てているかを評価する。【学習記録シートの記述等】</p> <p>【①～④の学習活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①～④について、当時の史料やグラフなどの諸資料を基に、第一次世界大戦の特徴などを確認し、資料から読み取る。 ①～④に係る問いについて、生徒相互で話し合ったり、考察したりして、その結果をワークシートに記入する。
		<p>主題「大衆社会の形成と社会運動の広がり」</p> <p>小単元3全体に関わる問い「大衆の『政治参加』はどのような条件の下で実現したか」</p> <p>○小単元3の見直し</p> <ul style="list-style-type: none"> 小単元3全体に関わる問いについて考察する。 <p>① 大衆の政治参加と女性の地位向上に係る問い</p> <ul style="list-style-type: none"> 「なぜ大衆は政治参加を求めたか」 「あなたは、なぜ日本で女性議員の比率が少ないと考え、そのことはあなたの生活にどのような関係があるか」 <p>○小単元3のまとめ</p> <p>《課題》①～④の学習内容を踏まえ、小単元3全体に関わる問いについて、資料を活用して考察し、その結果を表現する。</p> <p>○ 小単元2・3のまとめ</p> <p>《課題》「第一次世界大戦と大衆社会の学習を通じて、自身で表現した問いについて、気付いたことを学習記録シートに記入しよう」</p>	●	●	○	<p>【態】 小単元3全体に関わる問いについての仮説を立てることで、小単元全体の学習の見直しをもって取り組もうとしている。</p> <p>※【知】【思】は小単元2に準じる。</p> <p>※【知】【思】は小単元2に準じる。</p> <p>【態】 第一次世界大戦と大衆社会に関わる自身の問いについて、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして追究しようとしている。</p> <p>★「エ 評価問題等」で、評価の材料を紹介</p>	<p>小単元2・3での学習を踏まえ、「国際秩序の変化や大衆化」について小単元1で表現した自身の問いと学習内容との関係を確認させ、問いの見直しを図ったり、新たに気付いたことや新たな課題(問い)を見いだしたりしているかを評価する。</p> <p>【学習記録シート：例（イ）】</p>

(3) 経済危機と第二次世界大戦	小単元 4・5 (4時間扱)	主題「国際協調体制の動揺」 小単元4全体に関わる問い「なぜ『国際協調体制』は崩れてしまったのか」		本事例は、「自由と制限」の視点から主題を設定し、主題に関連して小単元6全体に関わる問いを設定した。 生徒が小単元1の問いを基に主題を設定し、様々な観点から現代的な諸課題との関連について考察し、表現する学習活動も考えられる。 単元全体の学習を踏まえ、現代的な諸課題につながる歴史的観点から主題を設定し、よりよい社会の実現を視野に自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしているか評価する。 【学習記録シート：例(ウ)】
		主題「第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰」 小単元5全体に関わる問い「第二次世界大戦は、世界と日本にどのような変化をもたらしたか」 ※小単元2及び3に準じる。		
(4) 国際秩序の変化や大衆化と現代な諸課題	小単元 6 (4時間扱)	主題 (例)「参政権の獲得と国家による制限」 小単元6全体に関わる問い (例)「参政権の獲得や行使は、国家はどのように捉え、現代を生きる私たちに何ををもたらしたか」 ①主題学習 《課題》「これまでの単元(大項目)の学習を振り返り、『自由と制限』、『平等と格差』、『開発と保全』、『統合と分化』、『対立と協調』などの観点から主題を設定し、資料を活用して現代的な諸課題との関連を考察し、結果についてまとめてみよう」 ・主題を設定する。 ・これまでの学習を振り返る。 ②大単元のまとめ 《課題》「小単元1で表現した問いを振り返り、理解が深まった点や新たな疑問(問い)などについてまとめ、表現してみよう」		【思】現代的な諸課題に関連付けて、多面的・多角的に考察し、表現している。 【知】現代的な諸課題の形成に関わる国際秩序の変化や大衆化の歴史について理解している。 【態】「国際秩序の変化や大衆化と私たち」における学習を踏まえ、よりよい社会の実現を視野に、自身との関わりを踏まえて学習を振り返るとともに、次の学習へのつながりを見いだそうとしている。 ★「エ 評価問題等」で、評価の材料を紹介

エ 評価問題等

(ア) 単元(大項目)全体の「学習の見通し」をもたせる場面での「学習記録シート」の例

歴史総合 単元「国際秩序の変化や大衆化と私たち」学習記録シート

小単元 1	単元「国際秩序の変化や大衆化と私たち」であなたが追究したいこと
	<課題①> これまでの学習を踏まえ、「国際秩序の変化」や「大衆化」に伴う人々の生活や社会の変化について、これからの学習を通じてあなたが追究したいことを「問い」の形で表現しましょう。
	<課題②> 自分が表現した問いの仮説(現段階での答え：予想)を記述しましょう。
	<課題③> これから単元(大項目)を学習していく中で、自分が表現した問いをどのように追究していくかを記述しましょう。

《評価のポイント》
 ○ 自身の「問い」そのものを評価するのではない。
 ○ 何に着目し、どのような見方・考え方を働かせて追究しようとしているかについて、適切に記述しているか。

(イ) 中項目全体の学習を振り返る場面での「学習記録シート」の例

小単元 2・3 「『第一次世界大戦と大衆社会』の学習の振り返り」
<振り返り①> 自身の「問い」について新たに気付いたことや、さらに追究したいことなどをまとめましょう。
<振り返り②> 小単元2・3でどのような学習内容が、あなた自身の「問い」の追究の手掛かりとなりましたか。

《評価のポイント》
 ○ 自身の「問い」と学習内容との関係に触れながら、今後の学習に対する見通しや改善点などについて、適切に記述しているか。

(ウ) 単元(大項目)全体の学習を振り返る場面での「学習記録シート」の例

小単元 6	<課題④> 国際秩序の変化や大衆化の歴史が、どのような現代の諸課題につながっているととらえることができるでしょうか。また、その課題解決やよりよい社会の実現に、あなた自身は、どう関わっていきたく考えましたか、具体的に述べましょう。
	<課題⑤> 単元の学習を終えて、「さらに知りたい」「よくわからなかったため明らかにしたい」と感じたことを記述しましょう。

《評価のポイント》
 ○ 単元全体の学習事項を踏まえ、現代の諸課題との関連やよりよい社会の実現に向けた自身の関わりについて、適切に記述しているか。

学習記録シート(全体)

Topic

世界遺産～北海道・北東北の縄文遺跡群の活用例～

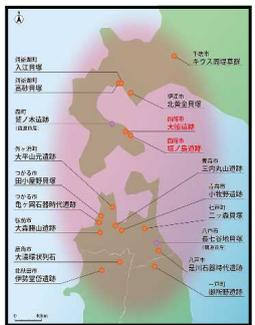
「北海道・北東北の縄文遺跡群」は、17の考古遺跡で構成され、北東アジアにおいて長期間継続した採集・漁労・狩猟による定住の開始、発展、成熟の過程や精神文化の発達をよく示しています。ここでは、新学習指導要領を踏まえた、北海道・北東北縄文遺跡群を活用した事例を紹介します。



【北黄金貝塚（伊達市）】

北海道・北東北の縄文遺跡群を活用した「日本史探究」の指導と評価の計画例

A 原始・古代の日本と東アジア (2) 歴史資料と原始・古代の展望

	各次の内容	学習活動	知	思	態	評価の方法・評価規準
第一次	原始・古代の日本と周辺地域との関わり 	<p>【時代を通観する問い】集落や国家は何を契機とし、何を目的に形成されたのだろうか</p> <p>「遺構や遺物は、私たちに何を教えてくれるのだろうか」について考察し、仮説を表現する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道・北東北縄文遺跡群の出土品を、文献や博物館、インターネットを使って調べる。 遺跡の発掘成果から、縄文社会の生活などの様子を推察したり、それ以後の時期の遺物や遺構などと比較したりする。  <p>(参考)「北海道・北東北の縄文遺跡群」(https://jomon-japan.jp/)</p>				<p>(2)では、(1)で生徒が表現した時代を通観する問いを踏まえて、諸資料から原始・古代の特色を多面的・多角的に考察し、仮説を表現する。</p> <p>(歴史総合における記述)資料に基づいて歴史が叙述されていることについては、例えば、歴史研究においてどのようなものが資料として扱われているかを調べるの他、実際に自分で歴史資料を吟味したり、複数の資料を比較したり関連付けたりすることなどを平素の学習にも位置付けて行うことが大切である。</p>
第二次	仮説の表現	<ul style="list-style-type: none"> 「時代を通観する問い」について、第1次の考察の結果を踏まえ、原始・古代の特色についての仮説を表現する。 <p>縄文文化が長く続いたのは、日本列島の環境と縄文文化の暮らし方が適合していたからではないか</p>				<p>仮説を表現する学習については、「(3)古代の国家・社会の展開と画期」の学習に向けての展望をもつ活動や、「(1)黎明期の日本列島と歴史的環境」の学習を総括する活動などを取り入れることが考えられる。</p>

北海道・北東北の縄文遺跡群を活用した「地理探究」の指導と評価の計画例

A 現代世界の系統地理的考察 (3) 交通・通信、観光

	各次の内容	学習活動	知	思	態	評価の方法・評価規準
第一次	単元の導入	<p>世界遺産への登録により、地域を訪れる観光客はどのように変化したのだろうか</p> <ul style="list-style-type: none"> 北海道・北東北縄文遺跡群を訪れる観光客数を、文献やインターネットを使って調べる。 観光客数の推移からわかること(想像できること)を考える。 <p>(参考) 北海道経済部観光局観光振興課「観光統計ポータルサイト」</p>				<p>(地理探究における記述)「観光」を事例とすると、ここで取り上げる主題として「訪日外国人観光客の観光行動の多様化」などが考えられる。例えば、「訪日外国人観光客の人数と出身国・地域はどのように変化してきたのだろうか」といった問いを立てて、外国人観光客の推移を統計や主題図などから読み取り、それらを分析するといった学習活動が考えられる。</p>
第二次	観光客の観光行動の多様化	<p>遺跡の世界遺産への登録は、人々の生活や地域の経済にどのような影響を及ぼしたのだろうか</p>				
第三次	問題の現状を理解	<p>(生徒が表現する問いの例)</p> <p>「遺跡の世界遺産への登録は、地域にとってプラスであったのだろうか」</p>				<p>問題の現状を探究するための筋道や学習の方向性を導く問いを表現する。</p>